2021年度 第２四半期 決算説明会

（2022年3月期）

2021年11月30日

能美防災株式会社 NOHMI

Ⅰ．2022年３月期 第２四半期
(2021年4月～9月) 連結決算概要

決算のポイント

受注高は第2四半期として過去最高

コロナ禍により不透明な環境ながらも堅調に推移し、
第2四半期の受注高として過去最高であった2020年3月期を上回った

高水準の受注残高を背景に売上増加

期初時点の受注残高が前期より約10%高い水準であったこともあり、
売上高は前期比9.3%増加

採算性の高い案件が集中

予定していたとおり、
比較的採算性の高い案件が集中したこと等により利益率は向上

2022年3月期 第2四半期 連結業績

（百万円）

	2021/3 2Q	2022/3 2Q		前期比		計画比	
	実績	計画	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	61,218	62,000	63,723	+2,505	+4.1%	+1,723	+2.8%
売上高	45,728	52,500	49,999	+4,271	+9.3%	△2,500	△4.8%
売上原価率	69.2%	68.9%	67.3%	△1.9pt	—	△1.6pt	—
売上総利益	14,098	16,350	16,345	+2,247	+15.9%	△4	△0.0%
販管費	10,920	12,450	11,706	+785	+7.2%	△743	△6.0%
営業利益	3,177	3,900	4,639	+1,461	+46.0%	+739	+18.9%
売上高営業利益率	6.9%	7.4%	9.3%	+2.4pt	—	+1.9pt	—
経常利益	3,380	4,000	4,898	+1,517	+44.9%	+898	+22.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,162	2,600	3,373	+1,210	+56.0%	+773	+29.7%
EPS（円）	35.87	43.12	55.94				

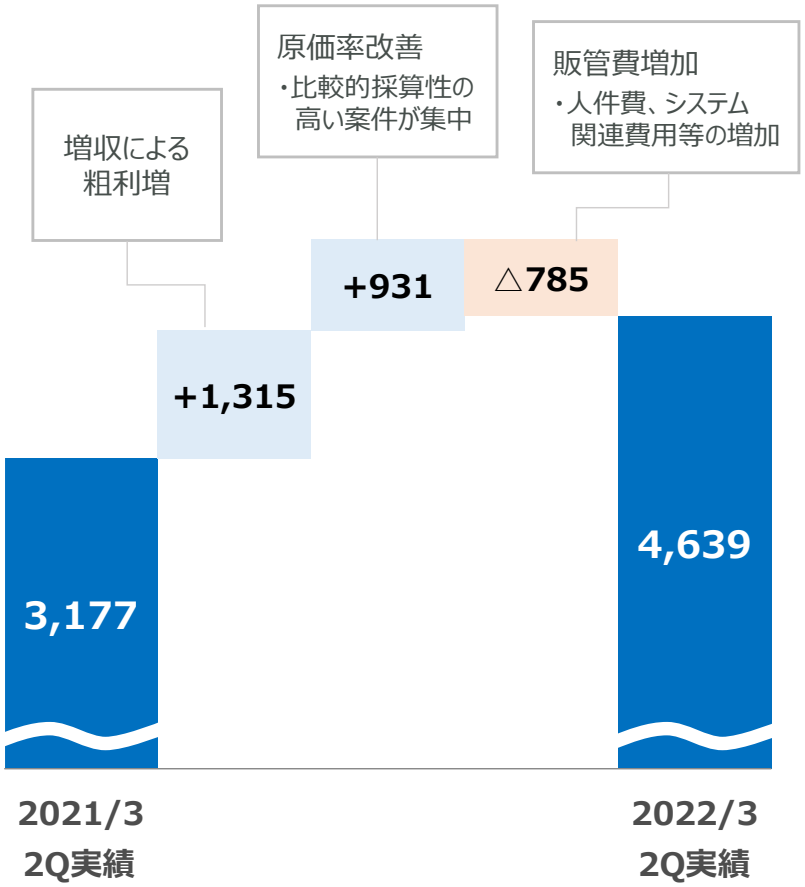
セグメント別売上高・利益

（百万円）

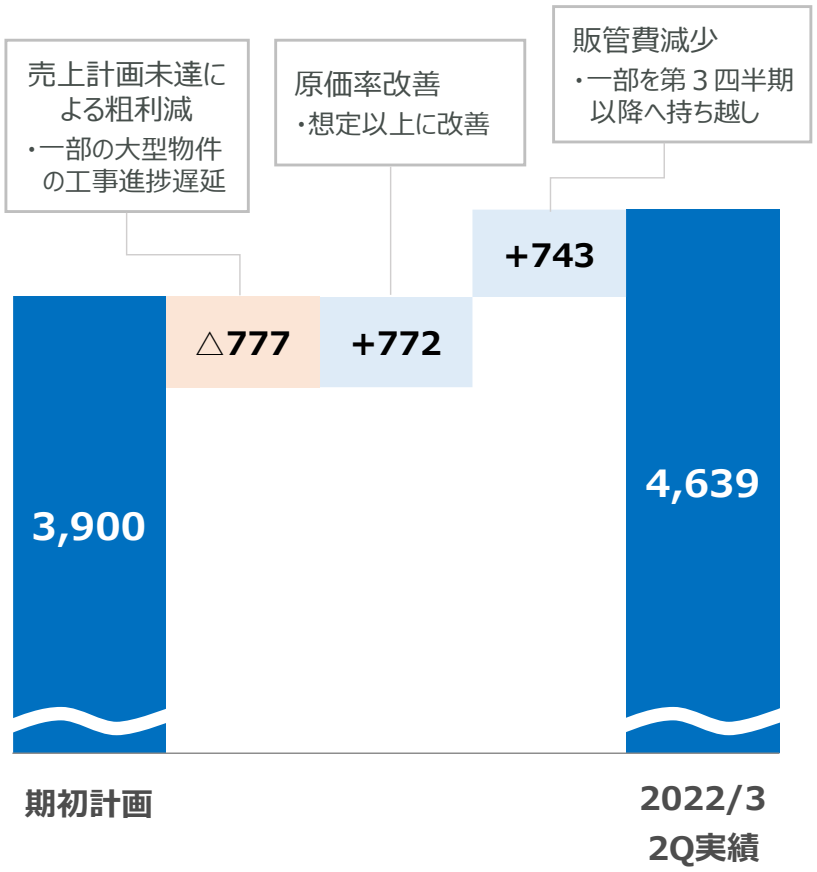
		2021/3 2Q	2022/3 2Q	前期比	
		実績	実績	増減額	増減率
火災報知設備	売上高	15,196	19,000	+3,804	+25.0%
	セグメント利益	1,776	4,083	+2,306	+129.8%
	(利益率)	(11.7%)	(21.5%)	(+9.8pt)	—
消火設備	売上高	17,220	17,156	△63	△0.4%
	セグメント利益	2,653	2,279	△374	△14.1%
	(利益率)	(15.4%)	(13.3%)	(△2.1pt)	—
保守点検等	売上高	11,352	11,616	+264	+2.3%
	セグメント利益	2,029	1,836	△193	△9.5%
	(利益率)	(17.9%)	(15.8%)	(△2.1pt)	—
その他	売上高	2,118	2,377	+258	+12.2%
	セグメント利益	△1	△36	△35	—
	(利益率)	(△0.0%)	(△1.5%)	(△1.5pt)	—
消去または全社	売上高	△158	△151	+7	—
	セグメント利益	△3,282	△3,523	△241	—
連結	売上高	45,728	49,999	+4,271	+9.3%
	営業利益	3,177	4,639	+1,461	+46.0%

営業利益増減分析

対前期比（百万円）



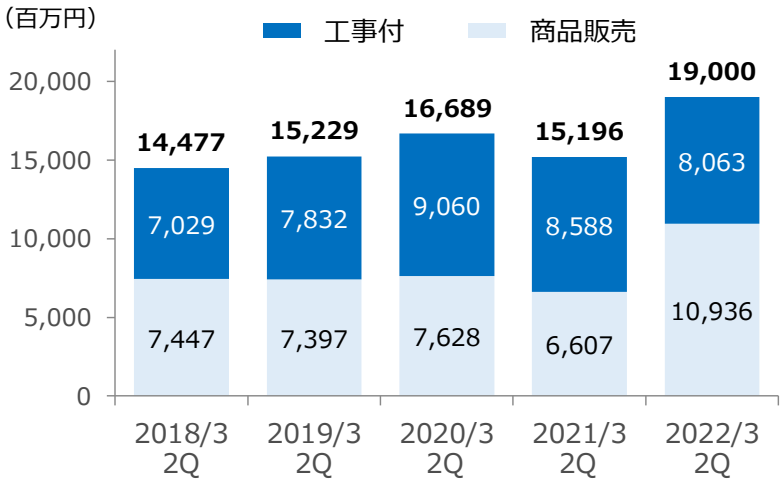
対計画比（百万円）



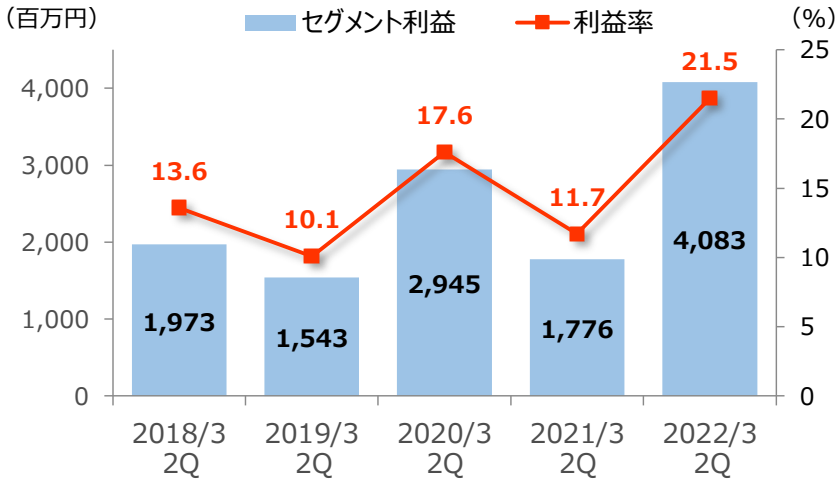
セグメント別情報

火災報知設備

売上高（消去前）



セグメント利益／利益率



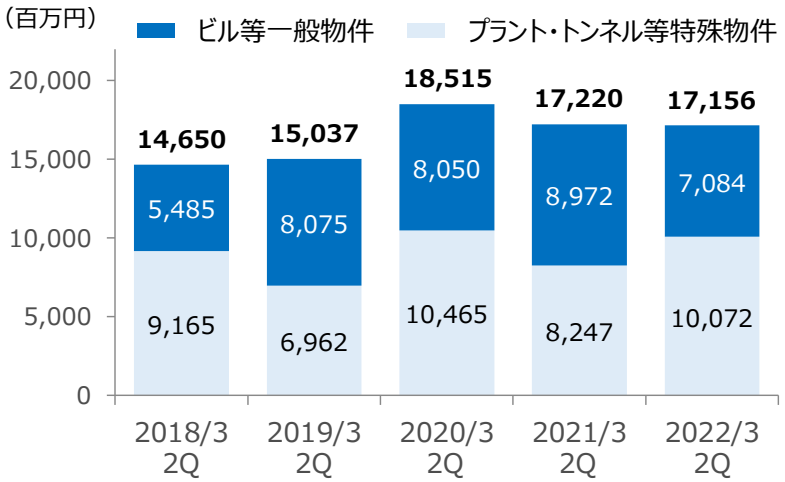
	2021/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	前期比 (%)
受注高	**18,449**	**24,091**	**+30.6**
受注残高	**15,019**	**14,534**	**△3.2**
売上高	**15,196**	**19,000**	**+25.0**
工事付	8,588	8,063	△6.1
商品販売	6,607	10,936	+65.5
セグメント利益	**1,776**	**4,083**	**+129.8**

- 売上高は、商品販売を中心に増加
- 比較的採算性の高い案件が集中したことなどから利益率も上昇
- 受注高も、概ね想定どおりに増加

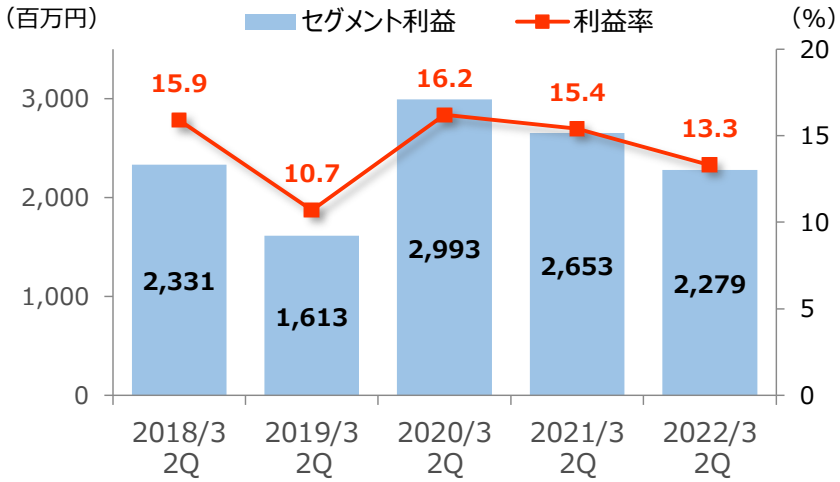
セグメント別情報

消火設備

売上高（消去前）



セグメント利益／利益率



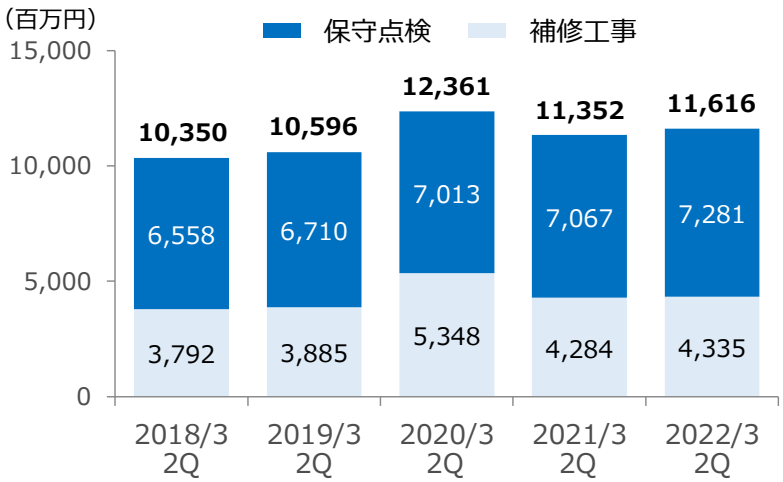
	2021/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	前期比 (%)
受注高	**22,364**	**18,820**	**△15.8**
受注残高	**39,303**	**40,262**	**+2.4**
売上高	**17,220**	**17,156**	**△0.4**
一般物件	8,972	7,084	△21.0
特殊物件	8,247	10,072	+22.1
セグメント利益	**2,653**	**2,279**	**△14.1**

- 一部の工事に進捗遅れがあったことなどから、売上高・利益とも想定ほど伸びず
- 受注高は、特殊物件を中心に前期の水準が高かったことから減少

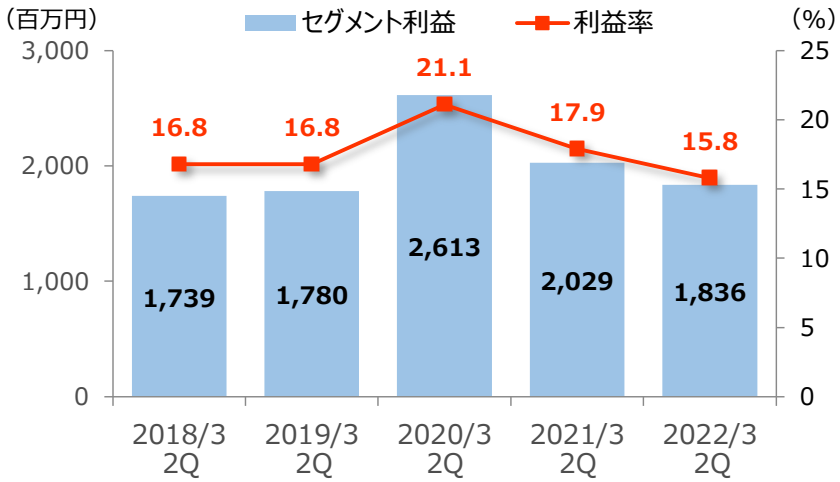
セグメント別情報

保守点検等

売上高（消去前）



セグメント利益／利益率



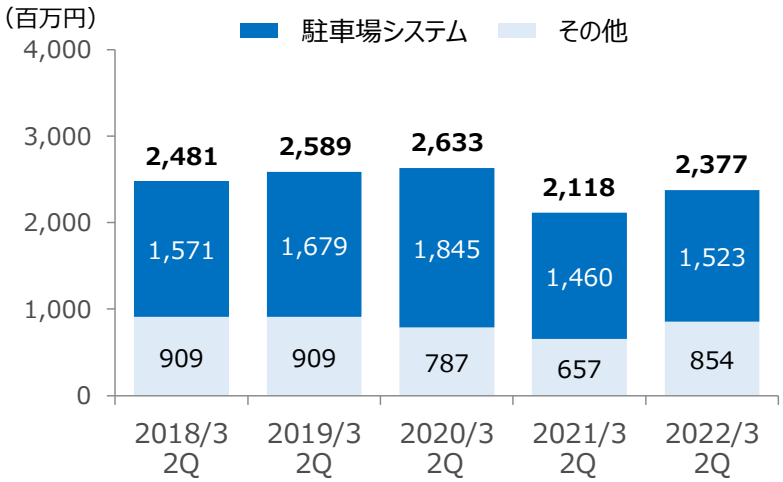
	2021/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	前期比（%）
受注高	**17,827**	**18,318**	**+2.8**
受注残高	**10,500**	**10,298**	**△1.9**
売上高	**11,352**	**11,616**	**+2.3**
保守点検	7,067	7,281	+3.0
補修工事	4,284	4,335	+1.2
セグメント利益	**2,029**	**1,836**	**△9.5**

- 受注高・売上高は、
  堅調な市場環境を背景に着実に増加
- 補修工事において、
  やや採算性の低い物件が多く、
  利益率は低下

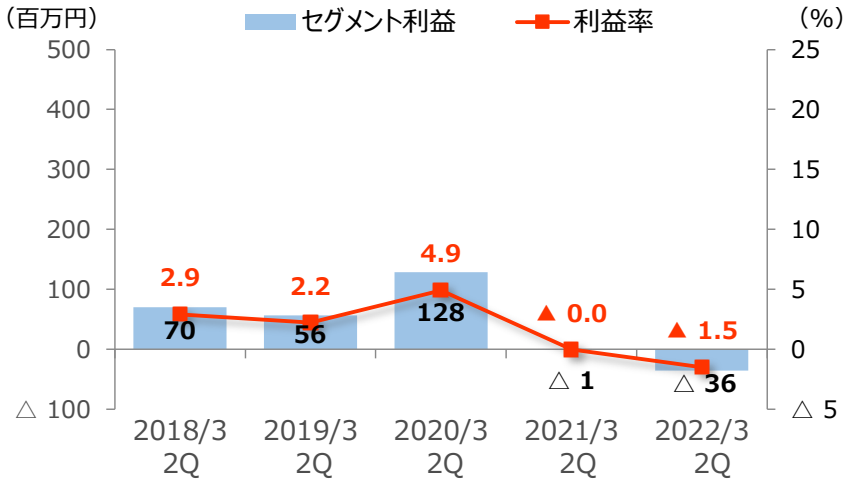
セグメント別情報

その他

売上高（消去前）



セグメント利益／利益率



	2021/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	前期比（%）
受注高	**2,577**	**2,492**	**△3.3**
受注残高	**1,301**	**998**	**△23.3**
売上高	**2,118**	**2,377**	**＋12.2**
駐車場システム	1,460	1,523	＋4.3
その他	657	854	＋29.8
セグメント利益	**△1**	**△36**	**―**

- 新型コロナウイルスの影響にから、売上高は回復傾向
- 受注高・利益は引き続き減少

Ⅱ. 2022年３月期 連結業績予想

2022年3月期 連結業績予想

（百万円）

	2021/3	2022/3	前期比	
	実績	予想	増減額	増減率
受注高	113,308	122,000	+8,691	+7.7%
売上高	107,897	120,800	+12,902	+12.0%
売上総利益 (利益率)	35,127 (32.6%)	39,950 (33.1%)	+4,822 (+0.5pt)	+13.7% —
販管費	24,073	26,450	+2,376	+9.9%
営業利益 (利益率)	11,053 (10.2%)	13,500 (11.2%)	+2,446 (+1.0pt)	+22.1% —
経常利益	11,494	13,800	+2,305	+20.1%
親会社株主に帰属する **当期純利益**	7,620	9,300	+1,679	+22.0%
EPS（円）	126.38	154.23		
ROE	7.7%	9.1%		

連結業績予想のポイント

新型コロナウイルスの影響による不透明感は継続

年度を通して工事の進捗遅延や民間設備投資の減少を懸念・注視すべき状況が続くと想定

期初予想どおり2ケタの増収・増益を予想

通期業績は計画通りの見込み
受注高・売上高は過去最高を目指す

営業利益率は定量目標である10%以上を維持

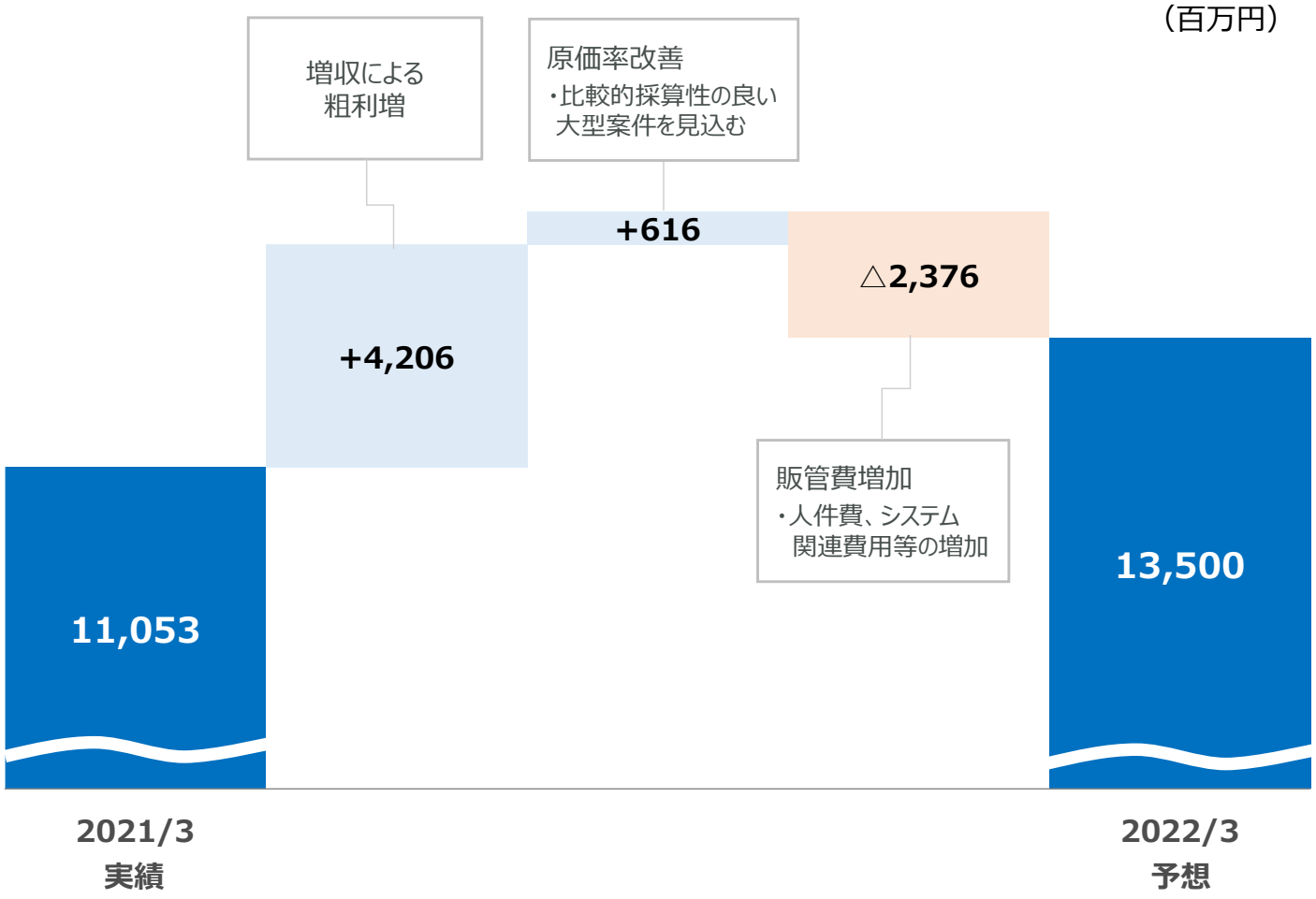
2022年3月期は中期経営計画の最終年度
策定当初の目標に売上高は未達となるも、営業利益率は達成を予想

セグメント別売上高・利益予想

（百万円）

		2021/3	2022/3	前期比	
		実績	予想	増減額	増減率
火災報知設備	売上高	38,039	46,077	+8,037	+21.1%
	セグメント利益	5,979	9,114	+3,135	+52.4%
	(利益率)	(15.7%)	(19.8%)	(+4.1pt)	—
消火設備	売上高	38,481	42,205	+3,724	+9.7%
	セグメント利益	6,568	6,710	+142	+2.2%
	(利益率)	(17.1%)	(15.9%)	(△1.2pt)	—
保守点検等	売上高	26,688	27,270	+582	+2.2%
	セグメント利益	5,392	5,161	△231	△4.3%
	(利益率)	(20.2%)	(18.9%)	(△1.3pt)	—
その他	売上高	5,038	5,595	+557	+11.1%
	セグメント利益	253	200	△53	△21.1%
	(利益率)	(5.0%)	(3.6%)	(△1.4pt)	—
消去または全社	売上高	△349	△349	—	—
	セグメント利益	△7,140	△7,687	△546	—
連結	売上高	107,897	120,800	+12,902	+12.0%
	営業利益	11,053	13,500	+2,446	+22.1%

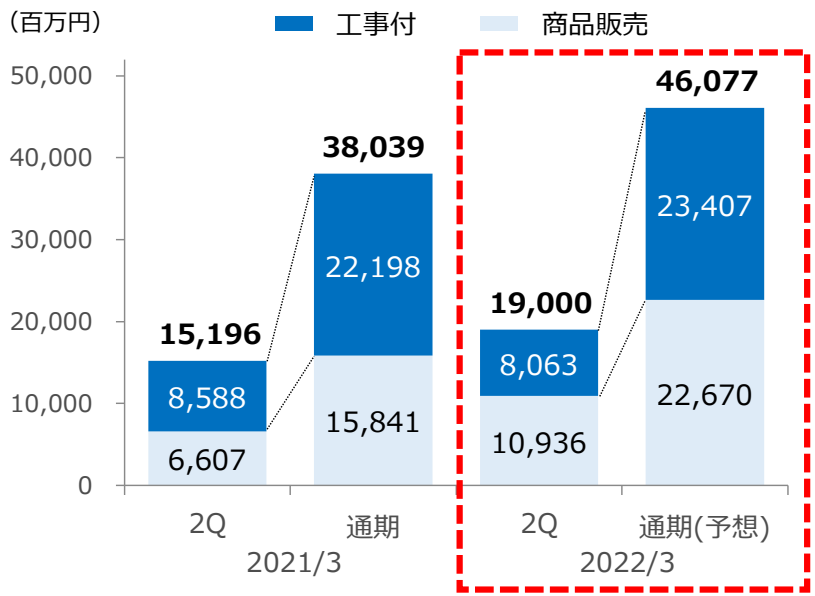
営業利益予想増減分析


（百万円）
増収による
粗利増
原価率改善
・比較的採算性の良い
大型案件を見込む
+616
△2,376
+4,206
販管費増加
・人件費、システム
関連費用等の増加
11,053
13,500
2021/3
実績
2022/3
予想

セグメント別売上高予想①

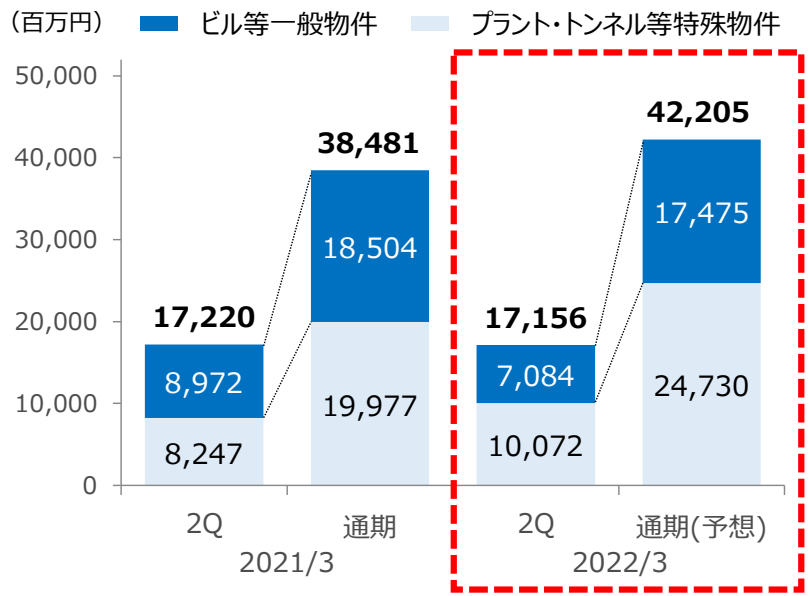
火災報知設備　消火設備

火災報知設備



- 大型案件を見込んでいること等から、大幅な増収を目指す

消火設備

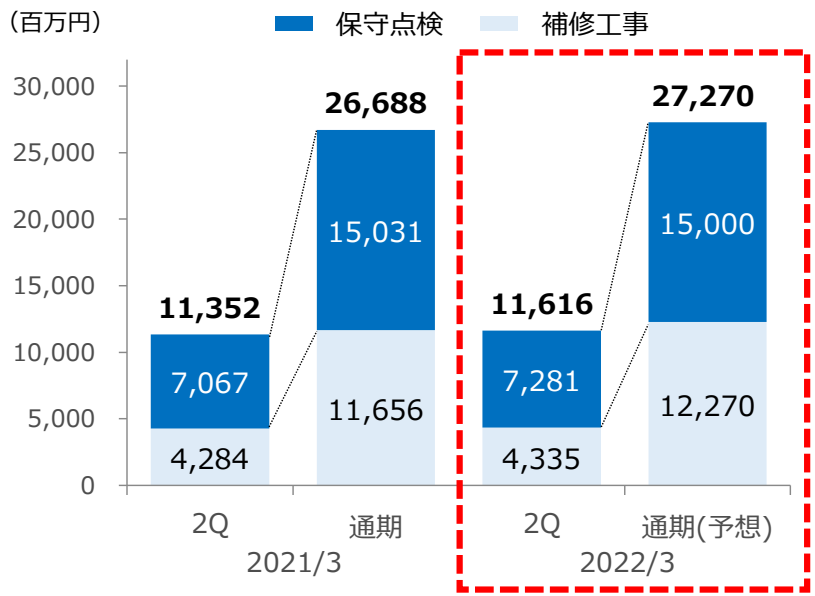


- 前期の受注が順調であったことを背景に、特殊物件の大幅増収を見込む

セグメント別売上高予想②

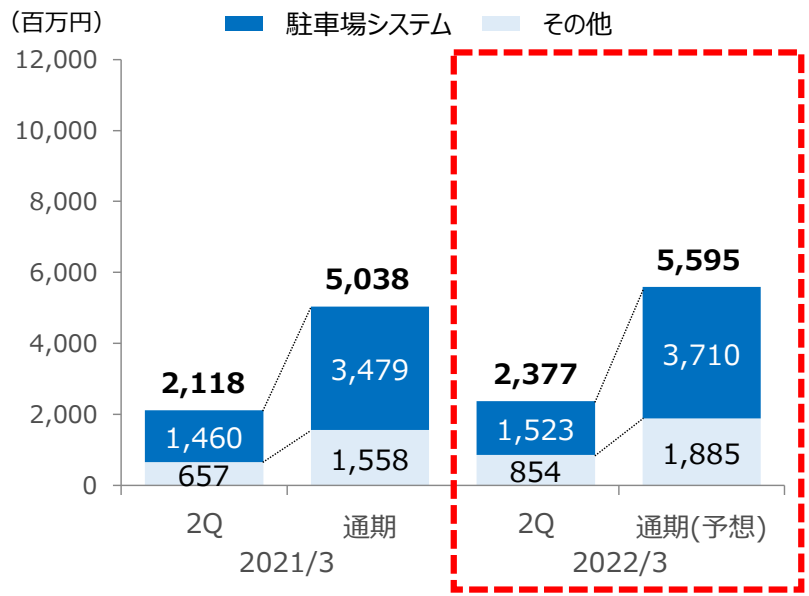
保守点検等　その他

保守点検等



先行き不透明な状況においても、
着実な売上計上を見込む

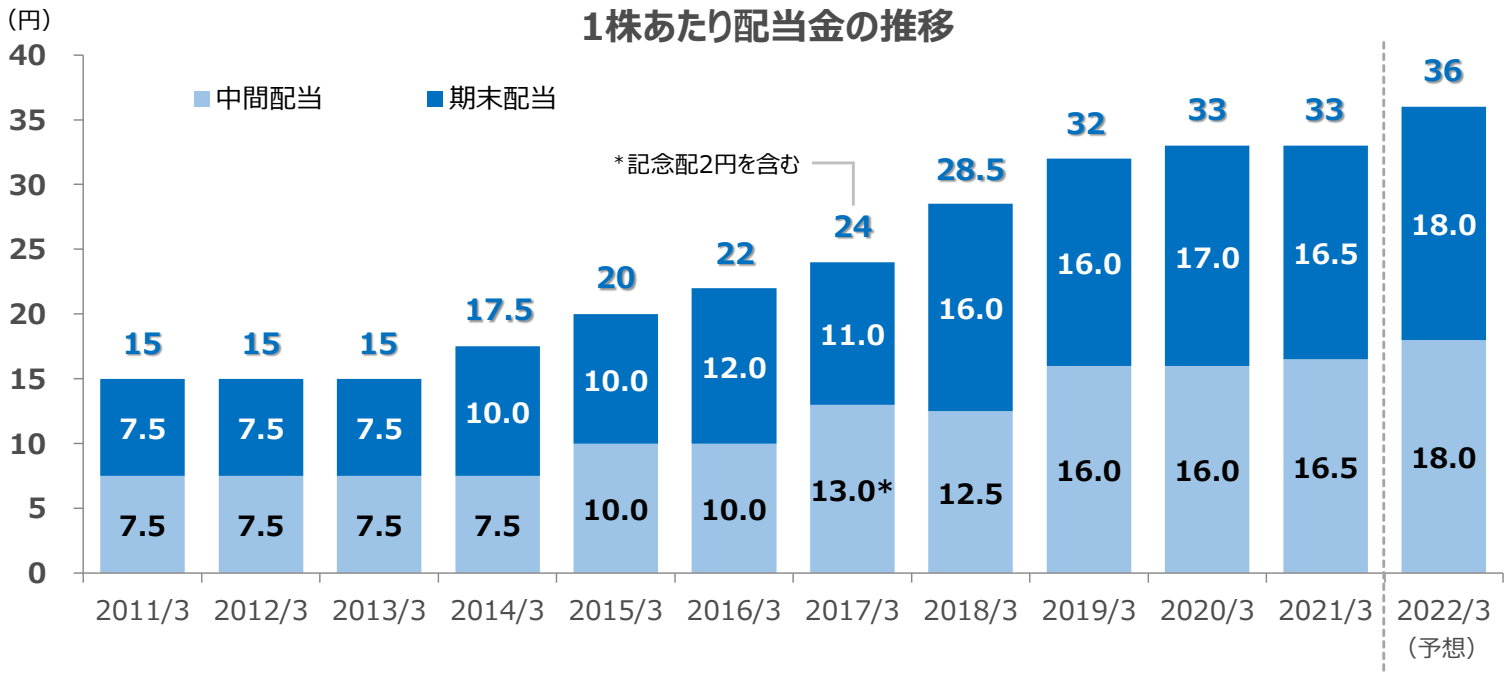
その他



新型コロナウイルスによる不透明感は
残るものの、駐車場システムの底打ちを
見込む

株主還元については、配当額の安定的な推移を重視

1978年以来、特別配当を除き減配をしていない



配当性向	48.5%	50.6%	31.4%	21.9%	21.4%	20.0%	20.8%	18.8%	24.7%	18.9%	26.1%	23.3%

Ⅲ. 中期経営計画『project2021』
（2019年度～2021年度）

当社の存在意義

防災事業のパイオニアとして、世の中の変化を先取りし、
社会の安全に貢献する価値を提供し続ける

外部環境に対応し、より高いステージへ進むためには

『現場力』の強靭化が必要不可欠

「現場力」…現場で発生する課題・問題を全員が当事者意識を持って自律的に発見し、組織力を発揮して解決にあたる力

中期経営計画の概要

ビジョン **強靭な「現場力」を礎に飛躍的成長へ**

総合防災企業として防災分野のパイオニアであり続ける

【中期経営計画の重点方針】

①人財力の向上

②事業構想力・遂行力 / オペレーションの精度とスピードの向上

③グループ経営の強化

より高いステージに向けた基盤づくり（投資、新たな取り組み）

中期経営計画 最終年度(2021年度)の取り組み

1	人財力の向上
2	基幹事業の礎の強化
	文化財防災事業の事例
3	事業構想力・遂行力／オペレーションの精度とスピードの向上
4	ガバナンス体制の強化継続

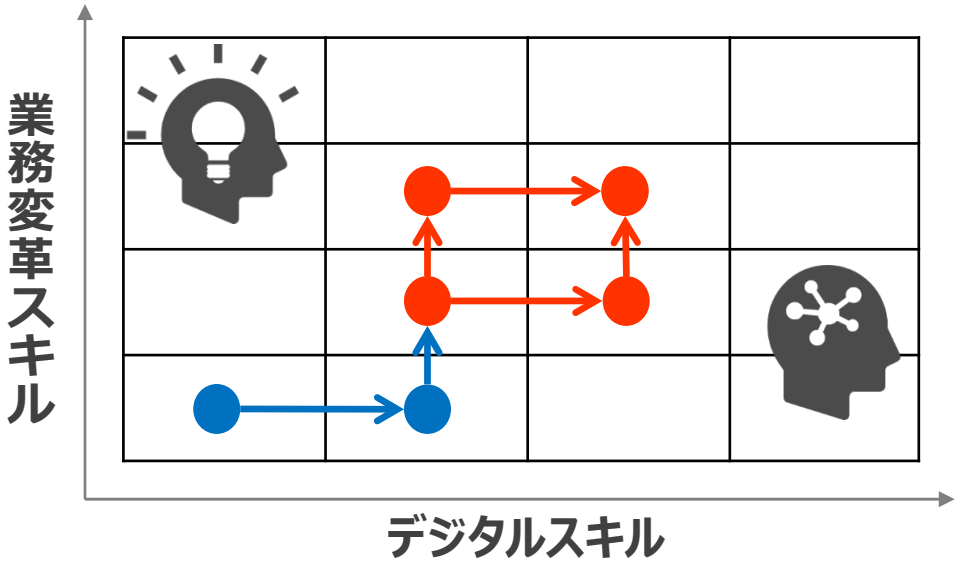
防災業界におけるDXの波

現場のワーカー不足 → 機械化・ロボット化 → 手にする物はドライバーからパソコンへ

デジタルスキルと業務変革スキルの底上げが必須

目指す人財育成のイメージ

- お客様の本質的なニーズに基づくアイデアを創出し、デジタル技術を駆使した改善提案や、サービスデザインができる
- 自部所の業務から課題を抽出し、デジタル技術を用いた改善ができる



基幹事業の礎を強化し、新規事業へチャレンジ

（※）新規事業の対象は、既存事業に取り組む中で、お客様ニーズが派生する可能性があると考える周辺領域

工場火災 に加えて、

文化財
データセンター
物流施設

等の市場変化にも対応していく

能美Gが直接・間接的に関係する市場規模は大きい

※ 各目標の市場規模は2017年の試算結果

SDGs

- 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに：**803兆円** 発電、エネルギーなど
- 11 住み続けられる まちづくりを：**338兆円** 災害予測など
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう：**426兆円** 防災インフラ、劣化監視など
- 13 気候変動に具体的な対策を：**334兆円** 災害リスクマネジメントなど

出所：「SDGsビジネスの可能性とルール形成」 デロイトトーマツ コンサルティング合同会社 2017年12月（https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/dev/md_3079.pdf）より当社作成

国が注力する事業の市場規模はさらに拡大していく

- インフラ・メンテナンス
- 省エネ・資源リサイクル
- 防災技術

- **社会の根幹である防災に関する課題は多い**
- **国主導の研究会などを注視** ※消防庁以外にも目を向ける

出所：首相官邸「第1回ムーンショット型研究開発制度に係るビジョナリー会議」<2019.3.29>をもとに当社作成

文化財防災事業のこれから

防火対策５か年計画から想定されるニーズの増加

（2020年度～2024年度）

文化財の防火対策に関する国の動き（ノートルダム大聖堂、首里城跡での大規模火災を受けて）

【文化庁】　国宝・重要文化財（建造物）の防火対策ガイドラインを公表、改訂

【文部科学大臣】　世界遺産・国宝等における防火対策５か年計画を決定

重点整備対象

・世界遺産および国宝（建造物）
・国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等（老朽化・不具合が確認されたもの）

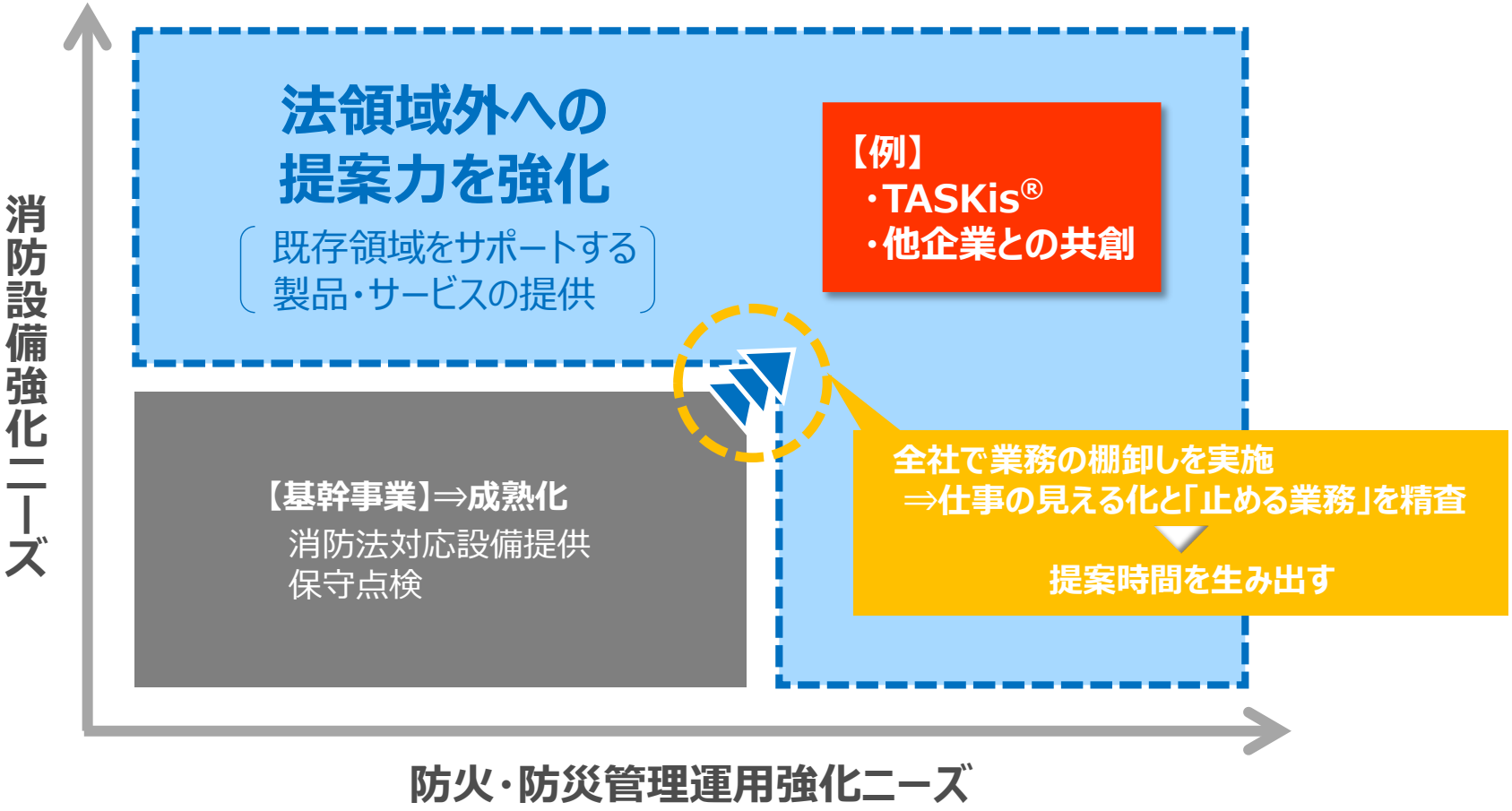
2021年度の状況

豊富な手持ち物件を着実に消化、さらに受注を積み上げ

・工期が長い物件が多いなか、工事は着実に進捗。
・2020年度の受注物件が想定以上に増加したことから、手持ち物件は豊富なところ、さらに受注を積み上げた。

今後　**引き続きニーズを着実にとらえ、受注増を目指す**

事業領域の拡大 ← 業務の棚卸し



事業領域の拡大への取り組みイメージ

安全・安心／信頼度向上

⇒ 保守点検事業自体の強化

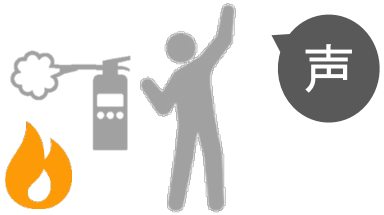
能美・防災支援システム TASKis Task Information System

火災臨場体験VR 混乱のオフィス

／ 品質向上

(新商品・新サービス提供)

付加価値向上



日々保守点検契約先で
ヒヤリハットが起きている

間口を広げる

営業体制・
提案体制強化
により、
事業領域の拡大へ

- 体制強化支援
- 相談：リスク診断
- 防火・防災設備強化支援

提供価値向上

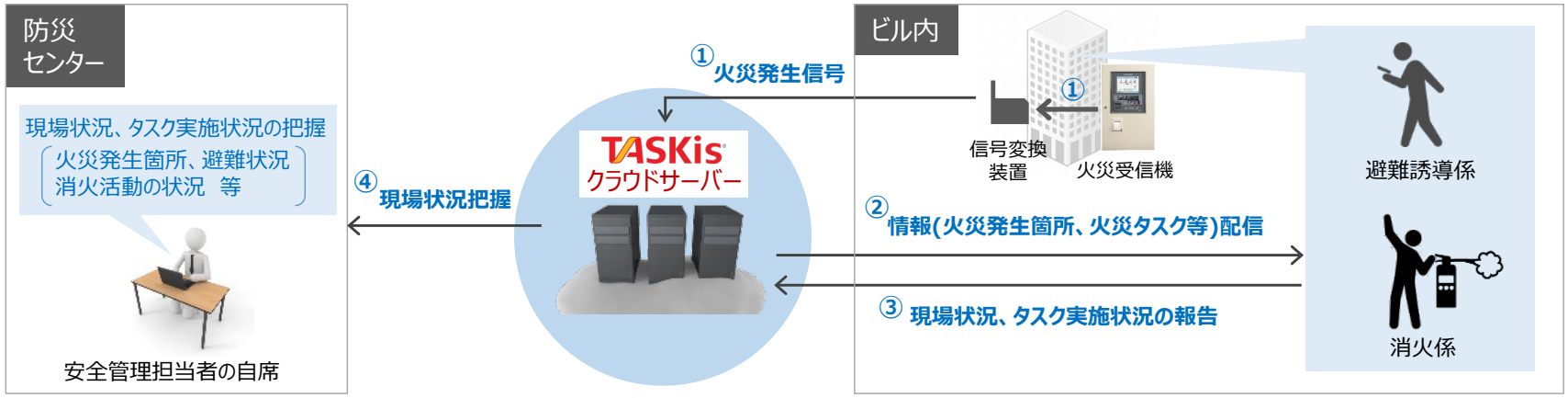
保守点検事業
⇒ 顧客（ユーザー）との直接的な接点

新たな価値の提供による提案力強化①

クラウド型防災支援ソフト『TASKis®』の主な機能

- 火災・地震など、BCPに係る非常時の行動指示情報(タスク)を、関係者のスマートフォンへ通知
- 関係者からのタスク実施報告を、管理者のパソコン画面へリアルタイムに表示

ビル内での火災発生を想定した「TASKis®」の動作イメージ



ソフト（体制整備）の面で新たな価値を提供

変化するお客様ニーズ …「検知・検出」から「予防」へ

新たな価値の提供による提案力強化②

火災臨場体験VR
混乱のオフィス

Granzella Inc.
㈱グランゼーラと共同制作

- オフィスビルでの火災の様子を再現したVRコンテンツの提供を開始
- リアリティのあるVRコンテンツ制作で著名な㈱グランゼーラと共同で制作
- 災害の危険性や怖さをリアルに体感してもらうことで、防災教育や訓練の効果を高めることが狙い
- 炎や煙だけでなく、火災に直面した人々の混乱の様子も表現

他社との共創 × デジタル技術の活用
で新たな価値を提供していく

海外事業の強化

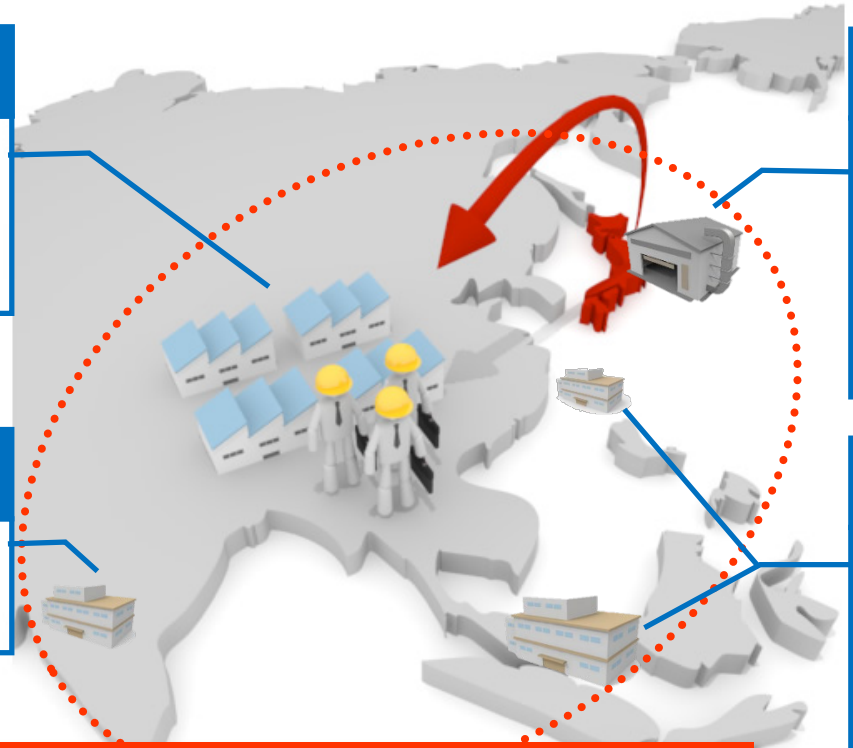
アフターサービスまでを含めた付加価値の高いサービスの提供

中国

販売ターゲット拡大
製造戦略の見直し

インド

事業戦略の再構築



日本

バックオフィス機能強化
製造バックアップ機能強化
グローバル人財の確保
M&A、他社との連携検討

東南アジア・台湾

営業拠点施策
代理店施策
製品ラインナップの見直し

新型コロナウイルス感染症拡大の影響はあるものの戦略は維持

コーポレート・ガバナンスの強化

経営体制の強化を継続

2021年6月開催予定の株主総会に付議

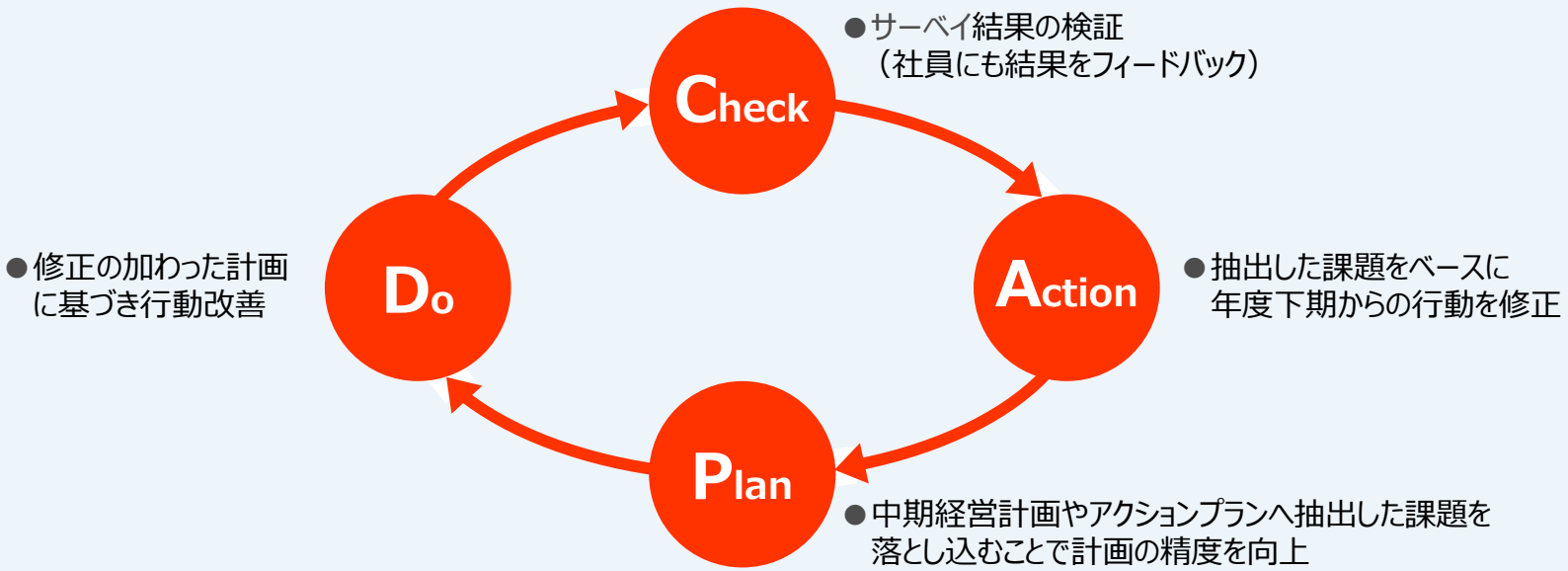
譲渡制限付株式報酬制度の導入

2020年6月実施

- 執行役員制度の導入
- 独立社外取締役の比率を1/3に引き上げ
- 女性取締役の選任
- 取締役会付議基準の見直し
- 任意の指名・報酬委員会の設置

中計推進に向け全社員へのエンゲージメントサーベイを実施

社員のモチベーションや組織のパフォーマンス向上施策に反映



◆ **中期経営計画を推進するための調査** (エンゲージメントサーベイ)

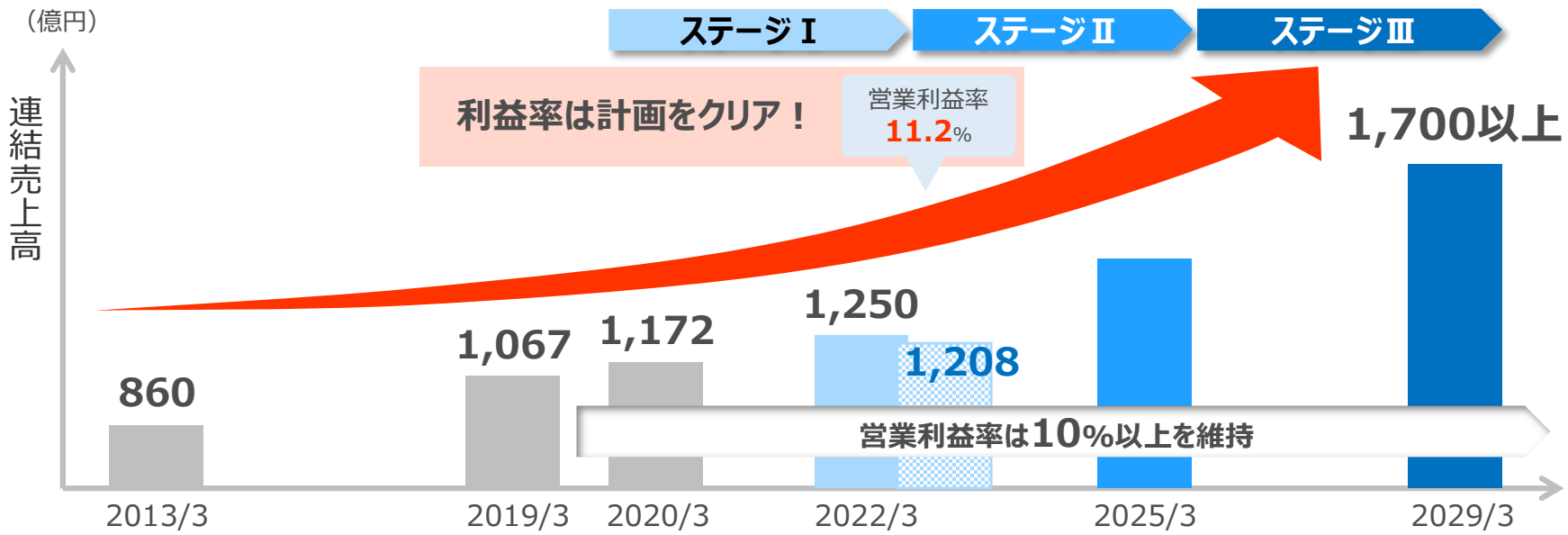
- 本中期経営計画の初年度から毎年実施
- eNPS（Employee Net Promoter Score）にて分析

※ eNPSとは…「従業員エンゲージメント」を測定するための指標

eNPS(%) ＝ ポジティブ回答者の割合(%) － ネガティブ回答者の割合(%)

定量目標

連結売上高・営業利益率



研究開発投資

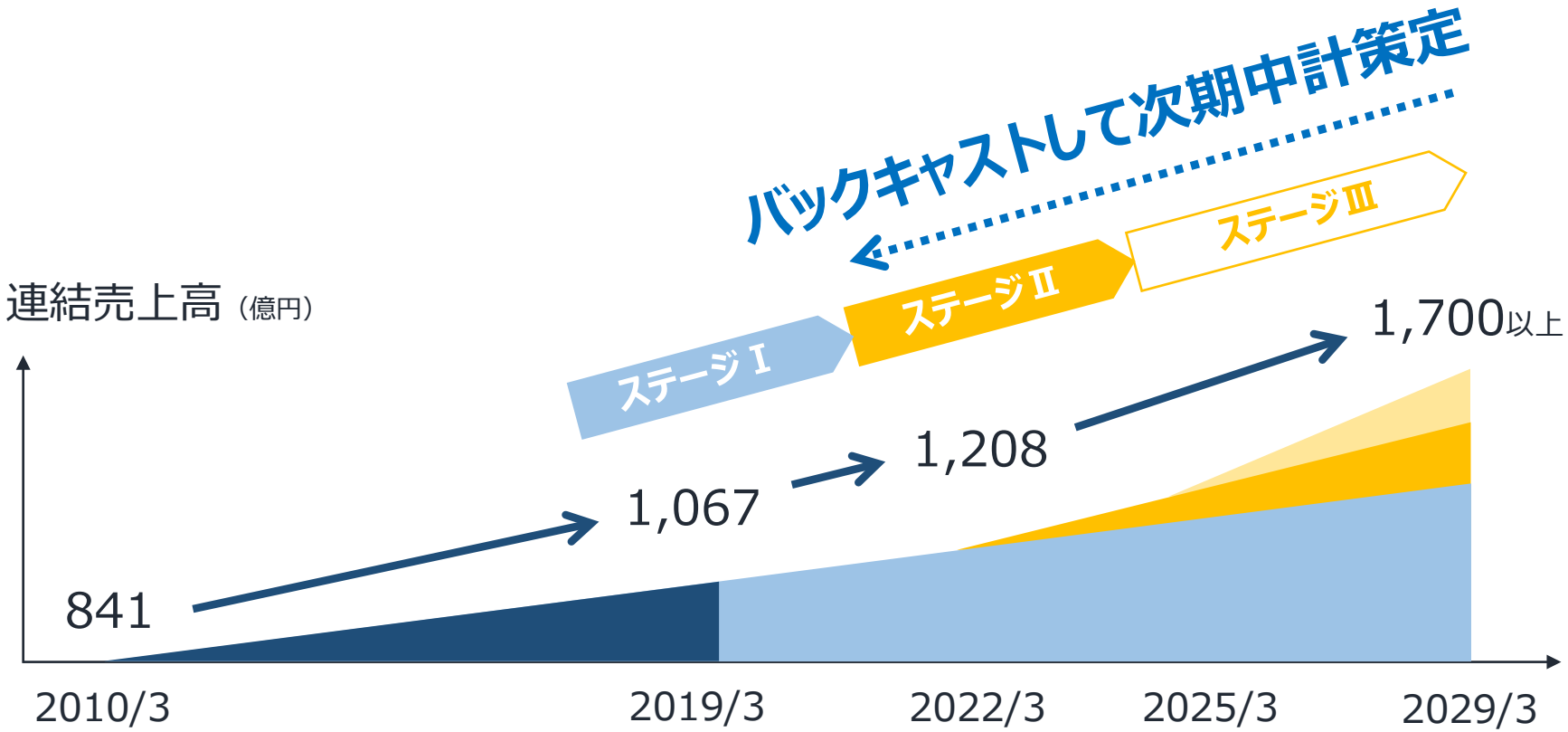
- 社内外の関係機関と連携し、要素・技術を導入
(データ・テクノロジー、AI、IoT…)
- 当社コア技術の社内育成を推進

次世代新商品開発へ

試験研究費	22億円	26億円	50億円
対連結売上高比率	2.1%	2.2%	3.0%

外部環境変化を踏まえ、改めて計画を精査

長期ビジョンからバックキャストして次期中計を策定中



Ⅳ. ご参考

会社概要

～ 防災システムを一貫体制で提供する総合防災企業 ～

商　　号	能美防災株式会社
本店所在地	東京都千代田区九段南四丁目７番３号
設　　立	1944 [昭和19]年 5月 5日　※創立は1916年 [大正5年] 12月
代 表 者	代表取締役社長　岡村 武士
資 本 金	13,302百万円
従業員数	2,606名＜連結＞
事業内容	防災に関する受託実験・企画・提案 各種防災設備、システムの企画、開発、設計、施工、保守 上記機器の設計、製造、販売 駐車場車路管制システムの設計、製造、施工、販売及び保守

※ともに2021年3月末

沿革

- 2021 VRコンテンツ「火災臨場体験VR～混乱のオフィス～」をリリース
- 2019 クラウド型防災支援ソフト「TASKis」を発売
- 2018 中・大規模建物向け防災システム「R-26C」を販売開始
- 2017 妻沼東事業所に、展示施設「能美テクノリウムメヌマ」を開設、メヌマ工場を拡大
- 創立100周年 2016 消火剤噴霧自動消火システム「SPlashα」を販売開始
- 2014 「リング型表示灯付発信機」がグッドデザイン金賞を受賞
- 2013 画像処理煙検知システムを販売開始
- 2010 三郷市に研究開発センターを開設
- 2009 火災予兆検知システム「PROTECVIEW」を販売開始
- 2006 セコム株式会社を引受先とする第三者割当増資を実施
- 2004 住宅用火災警報器「まもるくん10」を販売開始
- 2002 自動試験機能付P型自動火災報知システム「進P」を販売開始
- 1995 中国に合弁会社「北京能美西科姆消防設備有限公司」を設立
- 1991 東京証券取引所市場第一部に指定替え
- 1987 青函トンネルに防災設備、瀬戸大橋に消火設備を設置
- 1974 LNG基地防災システムを開発
- 1968 霞が関ビルディングに防災設備を設置 ＜超高層ビルとして国内初＞
- 株式上場 1962 名神高速道路の梶原・天王山トンネルに防災設備を設置 ＜高速道路トンネルとして国内初＞
  東京証券取引所市場第二部に上場
- 1936 皇居に火災報知設備を設置
- 1933 三十三間堂に火災報知設備を設置 ＜国宝として国内初＞
- 1924 前年の関東大震災を契機に自動火災報知機による防災事業開始
- 創立 1916 能美輝一、能美商会を創立

<R-26C>

<能美テクノリウムメヌマ>

<メヌマ工場>

<研究開発センター(三郷)>

<リング型表示灯付発信機>

<PROTECVIEW>

<能美輝一>

<宮中奥御殿（皇居）完工記念>

事業領域

火災報知設備

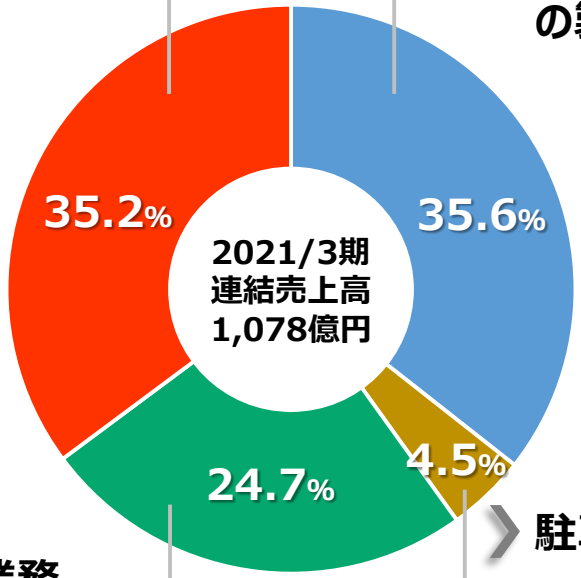
自動火災報知設備、環境監視システム、防火・防排煙設備等の製造販売及び取付工事を実施

【主要営業品目】
- 火災報知設備
- ガスもれ警報設備
- 避難誘導設備
- 環境監視システム
- 防火・防排煙設備
- 非常用放送設備
- 住宅防災システム

消火設備

スプリンクラー設備、泡消火設備、プラントやトンネルの防災システム等の製造販売及び取付工事を実施

【主要営業品目】
- スプリンクラーなど消火設備
- プラント防災システム
- トンネル防災システム



保守点検等

各種防災機器に係る保守点検・補修業務

その他

駐車場車路管制システムの取付工事・保守 等

総合防災力

- 研究・開発 ⇒ 製造 ⇒ 営業・設計 ⇒施工 ⇒メンテナンスまで
  一貫した責任体制でのサービスを全国に提供可能

一貫した責任体制

研究・開発 → 製　造 → 営業・設計 → 施　工 → メンテナンス

- 幅広い品揃えにより、様々な施設、防災ニーズに対応が可能

長い社歴の中で強みが磨かれた５つの要素

① 総合防災に関する開発、設計、施工等の『技術力』

② 豊富な実験により蓄積された火災に関する『ノウハウ』

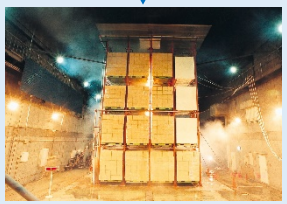
③ 細かな工程管理や対応等、ハイレベルな『施工力』

④ 実績とともに築かれた関係各所からの『信頼』

⑤ 日本全国に敷かれた充実した『代理店網』

※あらゆる火災発生状況を想定したシミュレーション

ラック式倉庫
火災実験

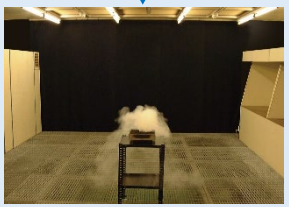


自動車塗装ブース
火災実験

高発泡消火実験

煙の流動実験

クリーンルームでの
発煙実験



注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、能美防災およびグループ各社が現時点で入手可能な情報に基づいており、この中には潜在的なリスクや不確定要素も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向等により、本資料における業績見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。